

# 釧路新郷土芸術賞に輝く

## 受賞者の横顔

■下■

を越えて「ギリシャ悲劇」の容(い)れもの」と冠に変わっていった。そのしへブライズムを表現し理由を「人間の原点があった「キリスト教会」(2005年、作家蔵)と「シナゴーク」(同)。近年の作品からは欧州思想の二大源流が見え隠れする。

中東に思いは

セメッセージ

「ヘレニズムとヘブラ

イズム。同根でありなが  
らどうして憎しみ合うの  
を感じないのか」。石  
油など利権絡みの紛  
争を耳にするたびにい  
つも舞台となる中東に思  
いをよせ、近年の作品に  
こうしたメッセージを静  
かに込める。

同様、月日がたつにつれ  
作品へのテーマに深みも  
増す。

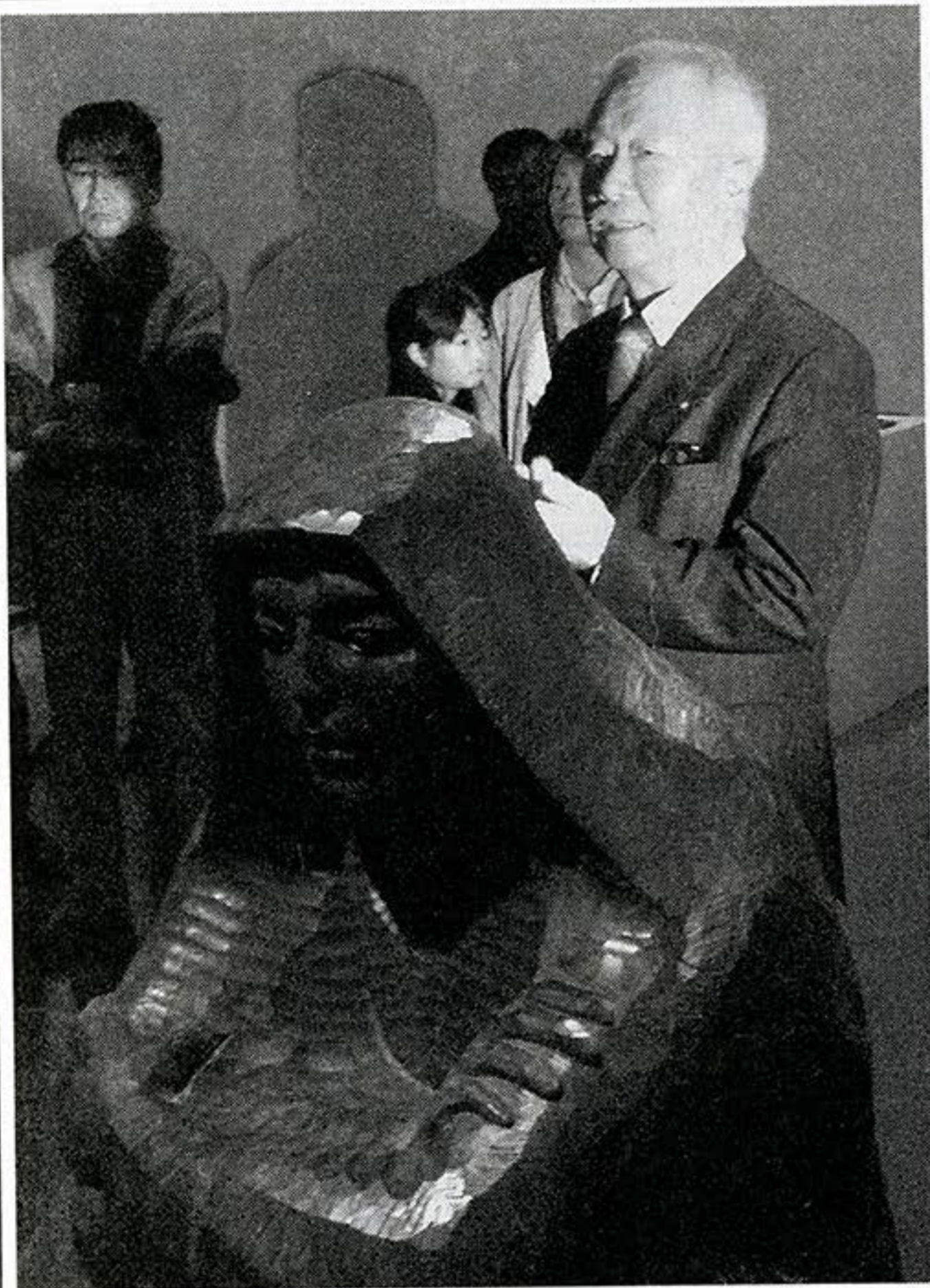
### 初期は郷国釧路の色濃く

実際、初期の作品は港  
や浜辺などの「郷国釧路」  
の要素が色濃かったが、  
約10年前からテーマが海

## 彫刻家

### 米坂ヒデノリさん(71)

(空知管内栗山町)



ギリシャ悲劇を基盤に「人間の原点」を探る米坂さん。手前の作品は「国境」(1970年発表)

# 木々と向き合い半世紀

## ギリシャ悲劇に人間の原点が

釧路江南高校から進んだ東京芸術大学彫刻科を首席で卒業。当時は塑像が中心だったが、釧路で粘土などの材料が手に入らず木彫に転身、1987年に空知管内栗山町に拠点を移して活動が続ける。

### 初めて郷土に認められた

今回の受賞に、米坂さんは「初めて郷土に認められた」と喜び、「今後、人も人間の原点をテーマに作品づくりをしたい」と先を見据える。

58年に第13回全道展で道知事賞。釧路短大の教授(非常勤)のほか、栗山町の文化財保護審議委員、道文学館理事などを務める。この秋、北海道文化賞を受賞。

ヘレニズムの世界観を出した「残照」(1998年、札幌芸術の森美術館蔵)、一方で「人びと

(佐藤純)